２部　新潟県の豊かな自然と災害

２部は、

新潟県の自然の“恵み”に関する情報として、

Ⅰ　新潟県の地域特性と

新潟県の自然の“災い”に関する情報として、

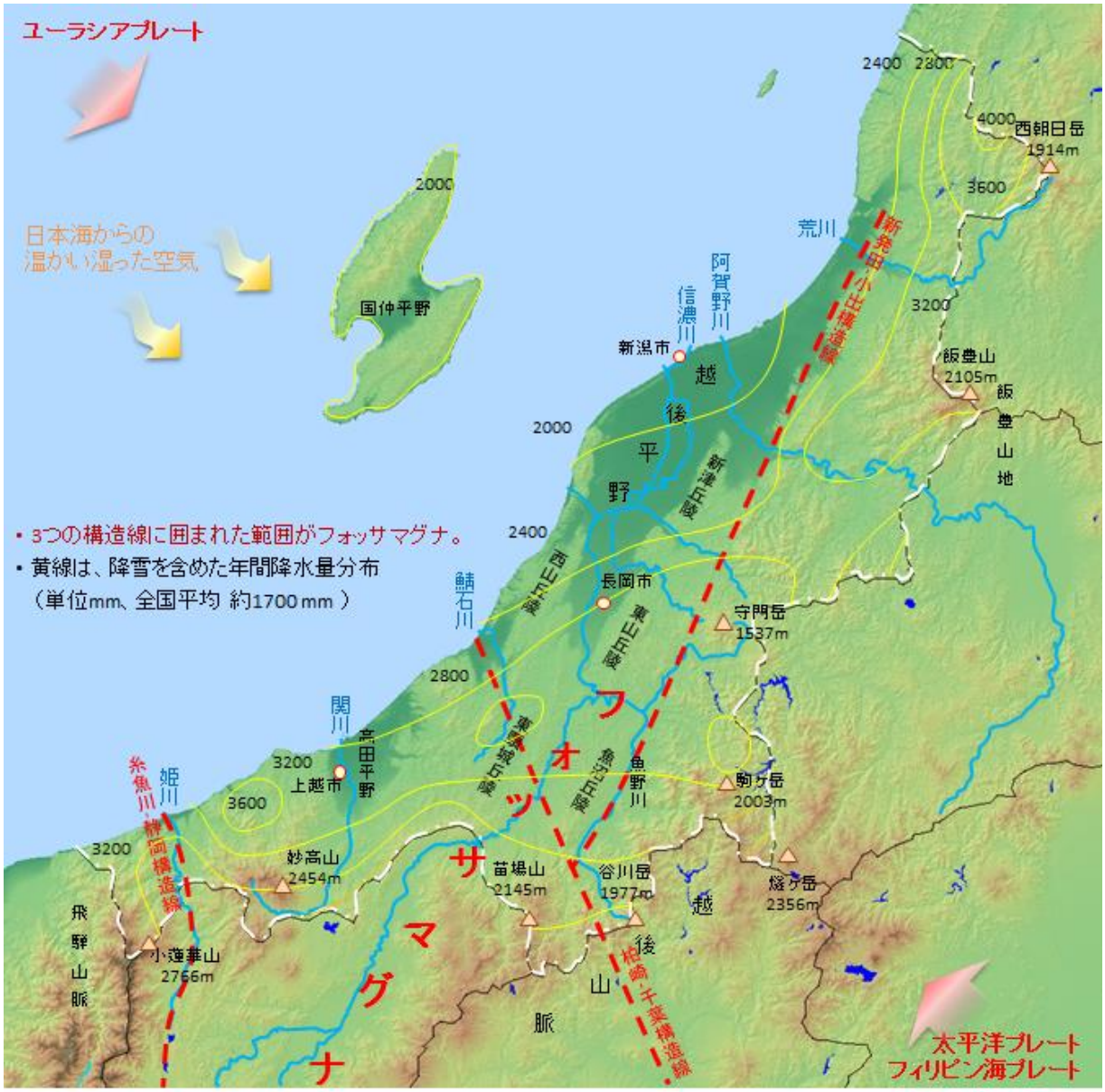
Ⅱ新潟県で発生した主な災害を

とりまとめています。

Ⅰ．新潟県の地域特性

新潟県は、大部分が約 300 万年前から隆起し始めたフォッサマグナの大地であり、主に海底に堆積した砂や泥からなり、地すべりなどの土砂災害が発生しやすいことが特徴です。また、プレート運動により、東西から圧縮する力が加わることで大地は変形し、新津丘陵や西山丘陵など南北に延びる丘陵がいくつも形成されています。そして、大地の弱い部分は断層となり地震災害の原因にもなっています。

このフォッサマグナの大地を囲うように、東から南にかけて飯豊山地や越後山脈、飛騨山脈等の標高 2000m 級の山々が連なっています。これらの山地・山脈に日本海からの温かく湿った空気がぶつかることにより大雨や大雪が降り、たびたび雪災害や洪水災害、土砂災害を引き起こします。



～新潟県の地形・地質・気象～

一方で、その地域特性が豊かな大地や生態系を生み出し、独特な文化や地域を支える産業を育んできました。

◆温泉箇所数：153 箇所（全国 3 位）　◆水力発電量：8801GWh（全国 4 位）
◆スキー場数：79 箇所（全国 3 位）　◆米の生産量：64 万トン（全国 2 位）
◆伝統的工芸品：16 点（全国 2 位、燕鎚起銅器、雪を利用する小千谷縮など）

新潟県の防災教育は、自然の恵みと災いの二面性をとらえ、災いをいなしつつ恵みを享受してきた先人の工夫や知恵、郷土への想いを受けとめる人材を育成するものでもあります。自然の恵みについても大切に扱い、郷土愛を育む道徳や総合的な学習の時間などの活動と連携させた展開が望まれます。

要因	災い	恵み	
地殻変動（プレート運動）	地震災害	石油・金銀等の地下資源 海岸・河岸段丘は農耕地として開発 ジオパーク等の観光資源	
フォッサマグナの大地	土砂災害	温泉地の発展 棚田の開拓	
2000m級の山々 日本海	雪災害	スキー・雪まつり等の観光資源 雪さらし・雪中貯蔵等の文化・産業資源 豊かな森林・水資源の農業用水・水力発電への利用による豊かな海の形成	
平野	洪水災害	氾濫原は肥沃な大地 安らぎの水辺の形成 洪水災害を乗り越えるための産業の発展	

自然の営みと先人の努力

新潟県の形成

Ⅱ．新潟県で発生した主な災害

年代	地震災害・津波災害	洪水災害
江戸 1603～	・**高田地震**（1751 年 5 月 21 日、M7.0～7.4 高田等で死者 2000 人、家屋倒壊及び焼失 6088 棟。 ・**小木地震**（1802 年 12 月 9 日、M6.5～7.0） 津波により被害拡大。佐渡等で死者 19 人、家屋倒壊 2155 棟、焼失 328 棟。 ・**三条地震**（1828 年 12 月 18 日、M6.9） 三条・見附・長岡などで被害。死者 1400 人、家屋倒壊 9800 棟、焼失 1200 棟。	・**白髭の水**（1680 年） 各地で信濃川が破堤し、信濃川の流れが変わる。 ・**宝暦の横田切れ**（1757 年） 各地で信濃川が破堤し十日町、長岡、三条、新潟等で浸水。被害の惨状をうたった「くどき」が伝わる。
明治 1868～		・**五反田切れ**（1881 年） 各地で信濃川が破堤し長岡、三条、新潟等で浸水。浸水家屋 5200 棟。破堤地の五反田では村ごと移転。 ・**横田切れ**（1896 年 7 月） 信濃川や魚野川、阿賀野川の各地 560 箇所で破堤し、死者 43 人、浸水家屋 34112 棟。
大正 1912～		・**曽川切れ**（1917 年 10 月 2 日） 信濃川の破堤により新潟は約 2 か月にわたって浸水。死傷者 76 人、流失・破壊家屋 29 棟。
昭和 1926～	・**長岡地震**（1961 年 2 月 2 日、M5.2） 積雪により被害拡大。長岡等で死者 5 人、住家全壊 220 棟。 ・**新潟地震**（1964 年 6 月 16 日、M7.5） 液状化や津波により被害拡大。新潟等で死者 26 人、住家全壊 1960 棟、浸水家屋 15297 棟。	・**昭和 27 年 7 月洪水**（1952 年 7 月） 新潟県全域で浸水家屋 1676 棟、冠水水田 190 ㎢、道路、鉄道が寸断され交通網が麻痺。 ・**鵜川の洪水**（1959 年 7 月） 鵜川の氾濫により柏崎等で被害。浸水家屋 7404 棟。 ・**昭和 39 年 7 月洪水**（1964 年 7 月） 刈谷田川などが破堤し、浸水家屋 11362 棟。 ・**羽越水害**（1967 年 8 月 28 日） 荒川、加治川、胎内川等の氾濫などにより胎内、関川、新発田等を中心に新潟県全体で死者 134 人、浸水家屋 61488 棟。 ・**6.26 新潟水害**（1978 年 6 月） 中越・下越地方を中心に大雨が降り三条、長岡、柏崎、新発田、新潟、五泉などで中小河川の氾濫や内水被害が発生。死者 2 人、浸水家屋 19581 棟、冠水農地 830 ㎢。
平成 1989～	・**新潟県北部の地震**（1995 年 4 月 1 日、M5.6） 北蒲原等で負傷者 82 人、家屋全壊 55 棟。 ・**中越大震災**（2004 年 10 月 23 日、M6.8） 土砂災害により被害拡大。長岡、小千谷等で死者 68 人、住家全壊 3175 棟。 ・**中越沖地震**（2007 年 7 月 16 日、M6.8） 柏崎等で死者 15 人、住家全壊 1331 棟。 ・**長野県北部の地震**（2011 年 3 月 12 日、M6.7） 新潟・長野県境付近で震度 6 強、新潟県では十日町、津南を中心に住家被害 297 棟。	・**7.11 水害**（1995 年 7 月 11～12 日） 上越地方に大雨が降り関川、姫川が氾濫。上越、妙高、糸魚川等で死者・行方不明者 2 人、浸水家屋 4137 棟。鉄道・道路が寸断され交通網が麻痺。 ・**8.4 水害**（1998 年 8 月 4 日） 佐渡・下越地方に大雨。佐渡、新潟等で死者 1 人、浸水家屋 15089 棟。 ・**平成 16 年新潟・福島豪雨**（2004 年 7 月 12～14 日） 中越・下越地方に大雨。五十嵐川、刈谷田川等が破堤し、三条、長岡等で死者 15 人、浸水家屋 8079 棟。 ・**平成 23 年新潟・福島豪雨**（2011 年 7 月 29～30 日） 中越地方を中心に大雨。五十嵐川、破間川等が破堤し三条、長岡、十日町、魚沼等で死者・行方不明者 5 人、浸水家屋 8669 棟。

■新潟県の自然災害年表

年代	土砂災害	雪災害
江戸 1603～	・**焼山の噴火**（1773 年） マグマが噴出。火砕流が発生。 ・**中野の地すべり**（1824 年） 長岡で発生。倒壊家屋 51 棟。	・**大雪・飢饉**（1681 年） 「この下に高田あり」の高札が建てられた。 ・**大雪・飢饉**（1756 年） 凍死、餓死、集団移転者など多数。
明治 1868～	・**外之沢の土砂崩れ**（1877 年） 糸魚川で発生。死者 6 人。 ・**粟立山地すべり**（1902 年 5 月 19 日） 妙高で発生。全壊家屋 2 棟、土石流で死者 1 人。	・**尾神岳の雪崩**（1883 年） 上越で発生。死者 27 人。 ・**浦瀬の雪崩**（1900 年 3 月） 長岡で発生、石油工場を襲う。死者 12 人。
大正 1912～		・**三俣の雪崩**（1918 年 1 月 9 日） 湯沢で発生。死者 158 人。住家 28 棟。 ・**磐越西線の雪崩**（1921 年 3 月 20 日） 阿賀で発生。雪崩に列車が乗り上げ大破・焼失。 ・**北陸本線の雪崩**（1922 年 2 月 3 日） 糸魚川で発生。列車埋没。死者 90 人。
昭和 1926～	・**樽田地すべり**（1957 年 4 月 12 日） 津南で発生。死者 18 人。 ・**地獄谷地すべり**（1957 年 12 月 13 日） 妙高で発生。死者 2 人。 ・**松之山地すべり**（1962 年 11 月 4 日） ・**小泊地すべり**（1963 年 3 月 16 日） 糸魚川で発生。死者行方不明者 4 人。 ・**羽越水害時の土砂災害**（1967 年 8 月 28～29 日） 胎内、関川、新発田等を中心に山間部の山肌が崩れ落ち各地で土石流等の土砂災害が発生。 ・**水沢新田地すべり**（1969 年 4 月 26 日） 魚沼で発生。死者 7 人、倒壊家屋 10 棟。 ・**焼山の噴火**（1974 年） 水蒸気噴火。降灰 65 万トン。死者 3 人。 ・**白田切土石流**（1978 年 5 月 18 日） 妙高で発生。死者 13 人、全壊家屋 13 棟。 ・**馬場地すべり**（1981 年 1 月 25 日） 妙高で発生。倒壊家屋 8 棟。 ・**蓬平地すべり**（1984 年 5 月 17 日） 長岡で発生。倒壊家屋 6 棟。 ・**玉ノ木地すべり**（1985 年 2 月 15 日） 糸魚川で発生。死者 10 人、全壊家屋 5 棟。	・**昭和 38 年豪雪**（1963 年冬季） 死者 12 人、住家被害 3685 棟。 ・**田屋の雪崩**（1963 年 1 月 25 日） 柏崎で発生。集落を襲う。死者 7 人。 ・**列車の立往生**（1963 年 1 月 25 日） 平野部で大雪。各地で列車が立ち往生しダイヤは大混乱。自衛隊が出動し除雪。 ・**昭和 56 年豪雪**（1981 年冬季） 死者・行方不明者 43 人、住家被害 846 棟。 ・**大倉雪崩**（1981 年 1 月 7 日） **/下折立雪崩**（1981 年 1 月 18 日） 魚沼で発生。死者 14 人。 ・**昭和 59 年豪雪**（1984 年冬季） 死者 34 人、住家被害 233 棟。 ・**清津峡の雪崩**（1984 年 2 月 9 日） 十日町で発生。死者 5 人。 ・**柵口雪崩**（1986 年 1 月 26 日） 糸魚川で発生。死者 13 人。
平成 1989～	・**7.11 水害時の土砂災害**（1995 年 7 月 11～12 日） 糸魚川の木地屋川土石流をはじめ各地で発生。 ・**8.4 水害時の土砂災害**（1998 年 8 月 4 日） 佐渡の東立島川土石流をはじめ各地で発生。 ・**平成 16 年新潟・福島豪雨時の土砂災害** （2004 年 7 月 12～14 日） 長岡の中永川土石流をはじめ各地で発生。 ・**中越大震災時の土砂災害**（2004 年 10 月 23 日） 長岡の東竹沢や濁沢での地すべりをはじめ各地で土砂災害が発生。芋川では河道閉塞が発生。 ・**平成 23 年新潟・福島豪雨時の土砂災害** （2011 年 7 月 27 日～30 日） 三条の牛野尾や十日町の麻畑など各地で発生。	・**平成 17 年豪雪**（2005 年冬季） 死者 26 人、住家被害 50 棟。 ・**平成 18 年豪雪**（2006 年冬季） 死者 32 人、住家被害 112 棟。 ・**平成 23 年豪雪**（2011 年冬季） 死者 22 人、住家被害 52 棟。

【地震災害・津波災害】

災害名	概　要	写真等
新潟地震 1964 年 6 月 16 日 【震源地】 新潟県下越沖 【規模】 M7.5 最大震度 5	■ 新潟市、村上市等で家屋被害多数。 ■ 地震発生から約 15 分後に津波が襲来し信濃川沿いが浸水。 ■ 震源に近い粟島は 1m 隆起。 ■ 新潟市では石油タンクに引火し約 2 週間後に鎮火。 ■ 新潟市を中心に液状化が発生し鉄筋コンクリート建物の傾きや沈下が相次ぐ。 【人的・住宅被害】 ・ 死者：26 人 ・ 住家全壊：1960 棟 ・ 住家半壊：6640 棟 ・ 住家浸水：15297 棟	 新潟地震対策連絡会提供 津波が押し寄せ避難を急ぐ人々
中越大震災 2004 年 10 月 23 日 【震源地】 新潟県長岡市 （旧川口町） 【規模】 M6.8 最大震度 7	■ 震度 7 の本震に続き、震度 6 強・6 弱の余震発生。 ■ 中越地方の中山間地域を中心に被害甚大。 ■ 地すべりや斜面の崩壊により道路が寸断。 ■ 61 集落が孤立。また、大規模な河道閉塞が発生。旧山古志村は全村避難。 ■ 上越新幹線が脱線。 【人的・住宅被害】 ・ 死者：68 人 ・ 住家全壊：3175 棟 ・ 住家大規模半壊：2167 棟 ・ 住家半壊：11643 棟	 提供:新潟県 道閉塞による浸水
中越沖地震 2007 年 7 月 16 日 【震源地】 新潟県上中越沖 【規模】 M6.8 最大震度 6 強	■ 柏崎市、長岡市、刈羽村で震度 6 強を記録。 ■ 柏崎で 1m の津波を観測。 ■ 液状化等により中心市街地で多くの建物が倒壊。 【人的・住宅被害】 ・ 死者：15 人 ・ 住家全壊：1331 棟 ・ 住家大規模半壊：856 棟 ・ 住家半壊：4854 棟	 提供:新潟県土木部 柏崎市街地

■主な自然災害の概要（災害別）

【洪水災害】

災害名	概　要	写真等
横田切れ 1896 年 7 月 22 日 【氾濫した主な川】 信濃川、阿賀野川 【主な破堤箇所】 燕市横田、 長岡市草生津、 新潟市赤渋	■ 信濃川や阿賀野川、その支流 560 箇所で破堤。 ■ 長岡から聖籠まで越後平野一帯が浸水。 ■ 浸水は 1 ヵ月にわたり生活環境が悪化。飢餓や病気による死者多数。 ■ 長生橋（長岡市）、旭橋（小千谷市）が流失。 ■ 大河津分水建設のきっかけとなる。 【人的・住宅被害】 ・ 死者：43 人 ・ 住家流失：276 棟 ・ 住家全壊：352 棟 ・ 住家半壊：3672 棟 ・ 住家浸水：34112 棟	 破堤した横田
羽越水害 1967 年 8 月 28 日 【氾濫した主な川】 荒川、胎内川、 加治川 【主な破堤箇所】 関川村下関、 新発田市西名柄	■ 下越地方を中心に総雨量 700 ㎜を超える大雨。 ■ 平野部では各川で破堤が相次ぎ新潟市北区から村上までの一帯が浸水。 ■ 山間部では土石流が集落や温泉街を襲撃。 ■ 道路、鉄道が各地で寸断、救助は空路を頼る。 【人的・住宅被害】 ・ 死者・行方不明者：134 人 ・ 住家全壊・流失：1080 棟 ・ 住家半壊：2067 棟 ・ 住家浸水：61488 棟	 関川村の小学校
7.11 水害 1995 年 7 月 11 日 【氾濫した主な川】 関川、姫川 【主な破堤箇所】 妙高市月岡、 糸魚川市平岩	■ 上越地方を中心に 2 日間で 300 ㎜を超える大雨。 ■ 姫川沿いの国道、鉄道は崩壊や落橋で壊滅。 ■ 妙高市杉野沢は川岸の浸食により川幅が 3 倍。 ■ 土石流等による土砂が流れ込み川底が上昇。橋が埋まるなどの被害が発生。 【人的・住宅被害】 ・ 死者・行方不明者：2 人 ・ 住家全壊：24 棟 ・ 住家半壊：15 棟 ・ 住家浸水：4140 棟	 提供:新潟県土木部 姫川と大糸線
平成 16 年新潟・福島豪雨（7.13 水害） 2004 年 7 月 13 日 【氾濫した主な川】 五十嵐川、刈谷田川 【主な破堤箇所】 三条市曲渕、 長岡市中之島	■ 中越地方を中心に 1 日で 300 ㎜を超える大雨。1 ヶ月分の雨が 1 日で降る。 ■ 11 箇所で破堤し長岡市、見附市、三条市等で浸水被害。浸水は 1 週間にわたって湛水。 ■ 孤立した保育所では園児をヘリコプターで救出。 ■ 急激な水位上昇により逃げ遅れた人が続出。 【人的・住宅被害】 ・ 死者：15 人 ・ 住家全壊：71 棟 ・ 住家半壊：5657 棟 ・ 住家浸水：8079 棟	 提供:新潟県土木部 破堤した五十嵐川

【土砂災害】

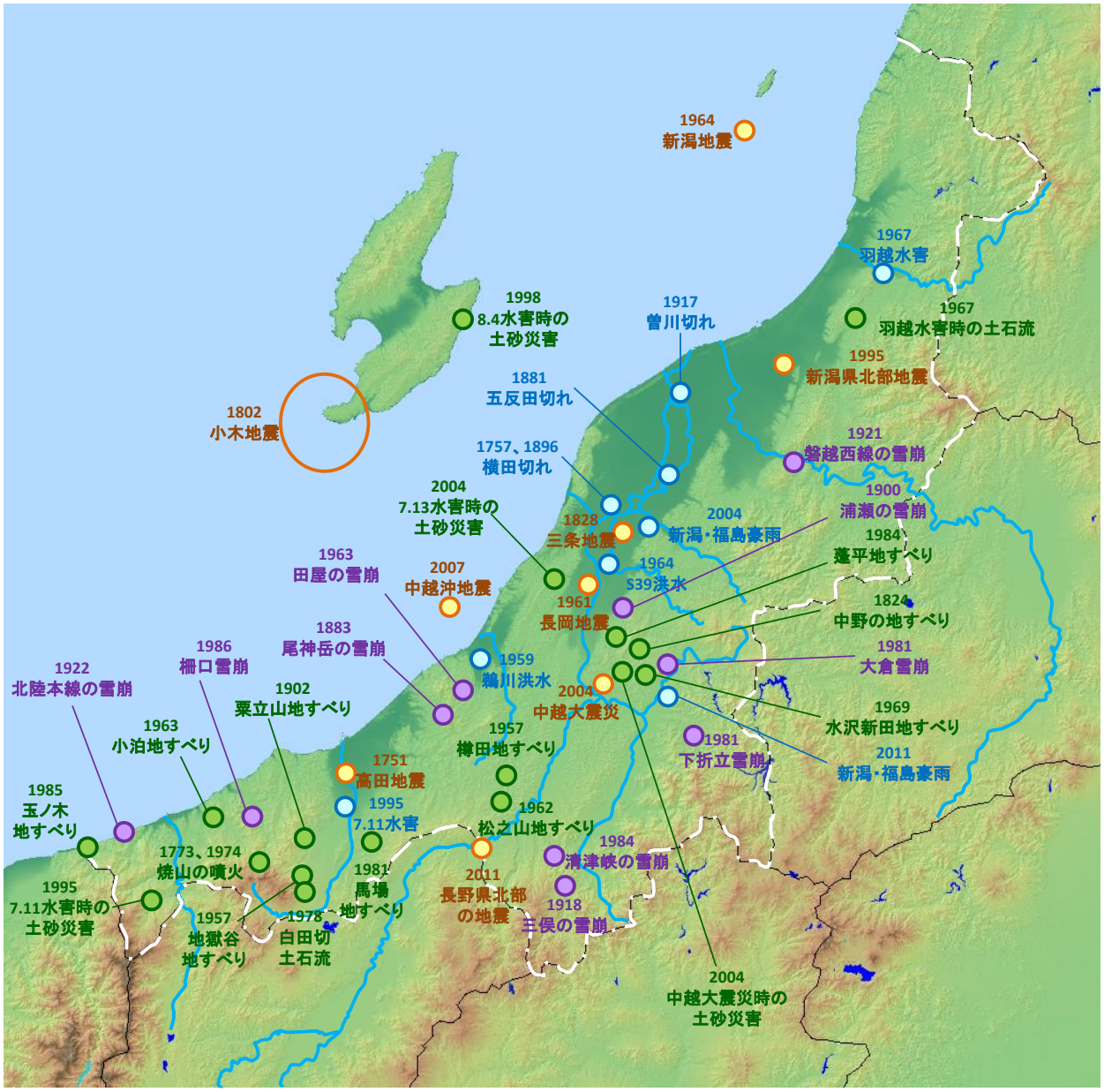
災害名	概要	写真等
松之山地すべり 1962 年 11 月 4 日 【発生地】 十日町市松之山 【規模】 幅：2400m 長さ：3600m	■ 春先に亀裂が生じ地すべりの兆候が現れる。 ■ 秋の長雨で活動が活発となり住家、学校、道路、水田に被害発生。 ■ その後も地すべりは続き 1964 年頃に停止。 ■ 地すべり多発地帯で、小規模な地すべりが一つになり大規模な地すべりに発展。 【住宅等の被害】 ・ 住家被害：371 棟 ・ 学校被害：4 棟 ・ 道路：5400m ・ 水田：3.5 ㎢	 地すべりで集落全体が移動
水沢新田地すべり 1969 年 4 月 26 日 【発生地】 魚沼市水沢 【規模】 幅：250m 長さ：150m	■ 集落の裏山が轟音を響かせて移動を開始。 ■ 84 万㎥の土塊が泥流となり、全長 950m を流下。 ■ 集落への到達時間は 30 秒から 3 分と急速。 ■ 逃げ遅れた人々が犠牲となった。 【人的・住宅被害】 ・ 死者・行方不明者：8 人 ・ 住家埋没：10 棟	 木々も一緒にすべり下った
中越大震災時の土砂災害 2004 年 10 月 23 日 【発生地】 中越地方	■ 中山間地の全域で地すべり、斜面の崩壊。 ■ 道路を寸断し集落孤立の原因となった。 ■ 長岡市妙見では通行中の車が巻き込まれた。 ■ 長岡市東竹沢では河道閉塞が発生し集落が浸水。 ■ 同年 7 月の新潟福島豪雨、10 月の台風による大雨により地盤が緩み被害が拡大。 ■ 地震発生翌年の大雪により融雪期には地すべり等が多発。 【土砂災害の発生状況】 ・ 地すべり：131 件 ・ 斜面の崩壊：115 件 ・ 土石流等：21 件　（合計 267 件）	 川を塞いだ地すべり
平成 23 年新潟・福島豪雨災害時の土砂災害 2011 年 7 月 29～30 日 【発生地】 中越及び下越地方	■ 中越・下越地方を中心に大雨。十日町では 1 時間雨量が 120mm、笠堀ダム（三条）では降り始めからの雨量が 985mm となった。 ■ 降雨は 7 月 27 日から 30 日の長時間に渡る。 ■ 長岡市と南魚沼市では 40 箇所超に土砂災害が発生。 ■ がけ崩れや土石流等により 9 棟の住家が全壊、道路の通行止めは 385 箇所。 【土砂災害の発生状況】 ・ 地すべり：35 件 ・ がけ崩れ：83 件 ・ 土石流等：109 件　（合計 227 件）	 スノーシェルター内を埋め尽くした土砂

■主な自然災害の概要（災害別）

【雪災害】

災害名	概要	写真等
昭和 38 年豪雪 1963 年冬季 1 月中旬から下旬にかけて、1 日に 20 ㎝から 60 ㎝の降雪が続き、平野部を中心に大雪	■ 積雪は長岡市で 318 ㎝、三条市で 245 ㎝を記録（いずれも観測史上第 1 位）。 ■ 列車の遅延、立往生が続出。交通網がマヒ。 ■ 家屋の倒壊、雪崩のほか、集落の孤立や融雪に伴う地すべりや洪水などの被害も相次ぐ。 ■ 一方、消雪パイプの効果が確認され、長岡から新潟県全域、全国へ普及する契機となる。 【人的・住宅被害】 ・ 死者：12 人 ・ 住家全壊：49 棟 ・ 住家半壊：181 棟 ・ 住家浸水：3455 棟	 アーケードの雪下ろし
昭和 56 年豪雪 1981 年冬季 1980 年 12 月下旬から 1981 年 2 月中旬にかけて降雪が続き、上越・中越地方で大雪	■ 新潟県は全国で最も多い死者数。 ■ 山間部では雪崩災害が、街中では除雪作業中に川や流雪溝に転落する死亡事故が多発。 ■ 38 豪雪を機に雪害対策が進展した結果、幹線道路や鉄道等の主要な交通が確保された。 【人的・住宅被害】 ・ 死者・行方不明者：43 人 ・ 住家全壊：27 棟 ・ 住家半壊：8 棟 ・ 住家浸水：811 棟	 提供:魚沼市 魚沼で発生した雪崩と捜索活動
柵口雪崩 1986 年 1 月 26 日 【発生地】 糸魚川市柵口 【規模】 幅 200m	■ 1 月 21～26 日の 6 日間で 185cm の降雪。 ■ 1 月 26 日午後 11 時頃、権現岳の標高 850m 付近で雪崩が発生。 ■ 速度 50m/s 程で 1800m を流れ下り柵口集落を直撃。 ■ 過去の地すべりによる地形の変化、樹木の減少が雪崩の流路や到達距離に影響。 ■ 集落を襲った雪崩災害では戦後最大の死者数。 【人的・住宅被害】 ・ 死者：13 人 ・ 住家全壊：8 棟 ・ 住家半壊：3 棟	 提供:新潟県土木部砂防課 権現岳と柵口集落
平成 18 年豪雪 2006 年冬季 2005 年 12 月上旬から 2006 年 2 月中旬にかけて降雪が続き、上越・中越地方で大雪	■ 暴風雪等により送電線のトラブルが発生。下越地方を中心に 65 万戸が停電。 ■ 県内各地で雪崩等による道路の通行止めが発生。津南では一時的に集落が孤立。 ■ 中越大震災被災地では前年に引き続き地震と積雪の影響による建物被害が確認された。 【人的・住宅被害】 ・ 死者：32 人 ・ 住家全壊：1 棟 ・ 住家半壊：2 棟 ・ 住家浸水：23 棟	 提供:新潟県土木部 雪に埋まった車

■新潟県の自然災害マップ



※ 地震・津波災害は震源地にプロットした。
※ 洪水災害は代表的な破堤箇所にプロットした。
※ 土砂災害は発生箇所にプロットした。なお、発生箇所が複数の場合は代表的な箇所にプロットした。
※ 雪災害は主として雪崩の発生箇所にプロットした。

新潟県の豊かな自然と災害　参考文献等

■新潟県の地域特性

・「新潟県の地震活動の特徴」地震調査研究推進本部 HP、2013 年 1 月 1 日算定
・「都道府県別土砂災害危険箇所」国土交通省砂防情報室 HP、
　平成 14 年度及び平成 10 年度公表データ
・「都道府県別雪崩危険箇所」国土交通省 HP、平成 16 年度公表データ
・「平成 23 年度都道府県別温泉利用状況」環境省 HP
・「都道府県別包蔵水力」のうち「既開発」資源エネルギー庁 HP
・「体育・スポーツ施設現況調査」文部科学省 HP、平成 20 年データ
・「米穀の収穫量」統計局 HP、平成 20 年データ
・「伝統的工芸品指定品目一覧｛都道府県別｝」経済産業省 HP、2012 年 7 月記者発表資料

■新潟県で発生した主な災害

○地震災害・津波災害

・「新潟県の地震活動の特徴」地震調査研究推進本部 HP
・「新潟県の地震（津波）災害」新潟地方気象台 HP
・「平成 16 年新潟県中越大震災による被害状況について（最終報）」新潟県防災局危機対策課 HP
・「平成 19 年 7 月 16 日に発生した新潟県中越沖地震による被害状況について（第 284 報 最終報）」
　新潟県防災局危機対策課 HP
・「「平成 23 年 3 月 12 日 03 時 59 分頃の長野県北部の地震」の被害状況について（第 26 報）」
　新潟県防災局危機対策課 HP
・「新潟地震の記録」新潟県防災局危機対策課 HP
・「新潟県中越大震災関連情報 12 月 7 日（山古志村撮影）新潟県撮影」
　新潟県防災局防災企画課 HP
・『平成 19 年（2007 年）新潟県中越沖地震の被害と復旧状況』新潟県土木部監理課企画調整室

○洪水災害

・『信濃川大河津分水誌（第 1 集）』建設省北陸地方建設局長岡工事事務所、昭和 44 年 3 月
・『大河津分水双書資料編第 1 巻横田切れ』五百川清編集・執筆、平成 13 年 7 月 22 日
・「大正 6 年 10 月洪水曽川切れ」国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所 HP
・「昭和 27 年 7 月洪水」国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所 HP
・「鵜川の洪水」新潟県柏崎地域振興局地域整備部 HP
・「昭和 39 年 7 月洪水」国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所 HP
・『あの日から 40 年～羽越水害の記録～』羽越水害復興 40 年記念事業実行委員会
　（事務局：新潟県土木部砂防課）
・『アーバンクボタ No.17 信濃川治水の歴史』大熊孝著
・『平成 7 年夏期豪雨水害第 3 報』新潟県土木部河川課・道路維持課・砂防課、平成 9 年 7 月
・『平成 10 年 8.4 水害』新潟県土木部監理課・道路維持課・河川課・砂防課、平成 10 年 8 月
・「7 月 13 日からの大雨による被害状況について（最終）」内閣府防災情報 HP
・『平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨の記録』新潟県土木部監理課企画調整室、平成 24 年 3 月
・「羽越水害の記録」新潟県防災局防災企画課 HP
・『平成 7 年 7.11 水害被害状況調査レポート』新潟県土木部河川管理課、平成 7 年 7 月
・『平成 16 年「7.13 新潟豪雨」水害対策事業概要』新潟県土木部河川管理課、平成 17 年 2 月

・「土木人物アーカイブス「古市公威旧蔵写真館」」
　公益社団法人土木学会附属土木図書館、明治 29 年

〇土砂災害

・「新潟焼山有史以降の火山活動」気象庁 HP
・「新潟県地すべり災害年表」公益社団法人日本地すべり学会新潟県支部 HP
・『新潟県の砂防』新潟県土木部砂防課、平成 18 年
・『5.18 妙高高原地すべり災害白田切川土石流災害復旧概要』新潟県土木部砂防課、新潟県妙高砂防事務所
・「松之山地すべり」新潟県土木部砂防課 HP
・「水沢新田すべり」新潟県土木部砂防課 HP
・『平成 16 年（2004 年）新潟県中越地震芋川河道閉塞における対応状況』
　国土交通省北陸地方整備局湯沢砂防事務所、平成 16 年 12 月
・『平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨の記録』新潟県土木部監理課企画調整室、平成 24 年 3 月

〇雪災害

・『日本の雪害史』日本積雪連合、昭和 56 年 1 月 1 日
・「日本の雪崩災害データベース」新潟大学災害復興・科学研究所作成
・『新潟県の雪対策』（第 2 章新潟県の概要）新潟県総務管理部、平成 23 年 3 月
・「昭和 38 年豪雪」長岡市すずらん通り商店街 HP
・『わたしたちの魚沼市』魚沼市教育委員会、平成 21 年 11 月
・『新潟県の砂防』新潟県土木部砂防課、平成 18 年
・『「平成 18 年豪雪」による被害と対応状況』新潟県土木部監理課企画調整室、
　平成 18 年 3 月 31 日

新潟県防災教育プログラム【教職員用ガイド編】

※新潟県の豊かな自然と災害

平成 26 年 2 月（平成 27 年 10 月※一部データ修正）

公益財団法人　新潟県中越大震災復興基金

（協力　新潟県教育委員会　新潟県）

制作：公益社団法人中越防災安全推進機構 地域防災力センター
株式会社アイ・ディー・エー